

サツマイモ基腐病の防除対策について

サツマイモ基腐病はカビによる病害で、茨城県では令和3年に初めて発生が確認されました。現在までに3例の発生が確認されましたが、すべて抜き取りと土壌消毒が実施され発生は拡大していません。

多発生するとサツマイモの収量が大幅に減収することや、一度発生すると防除が難しく被害が拡大する恐れがあるため、「**持ち込まない、増やさない、残さない**」を基本に、引き続き、侵入防止対策を徹底し、早期発見に努めましょう。

茨城県農業技術課 HP (<https://www.pref.ibaraki.jp/nour/insuisan/nougi/shokubou/contents07.html>)

茨城県病害虫防除所病害虫発生予報2月号P2

(<https://www.pref.ibaraki.jp/nour/insuisan/nosose/byobo/boujosi/dou/yosatsu/joho/documents/yr0702.pdf>) も参考に願います。

サツマイモ基腐病の特徴

育苗中では苗基部の黒変、地上部の葉巻や萎縮症状が生じます。本圃では地際茎の黒変、茎葉の黄変やしおれ症状を生じて地上茎葉の繁茂が不良となり、発病が激しいと地上部が枯死します。感染したイモ（塊根）は成り首から腐敗します。また、貯蔵中のイモでも、感染していると成り首から腐敗が進みます。

図1、図2：(出典：茨城県農業総合センター)



図1 茎葉の黄変やしおれによる繁茂不良



図2 成り首からの腐敗

防除対策

(1) 貯蔵期

貯蔵中のイモは、異常がないかどうか定期的に確認し、貯蔵中に疑わしい症状のイモを見つけた場合、そのイモを貯蔵しているコンテナを隔離する。

(2) 育苗期～植付期

①育苗時の注意

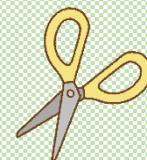
- ・ 苗の増殖は、ウイルスフリー苗を用い、来歴が不明な種イモや切苗は絶対に使用しない。
- ・ 多発生地域からは、種イモや切苗を持ち込まない。また、生産者間で種イモや切苗の譲渡等を行わない。

②作業時の注意

- ・ 発生地域と行き来のあったコンテナ等は、洗浄、消毒してから使用し、残さや土を圃場に持ち込まない。
- ・ 作業する圃場ごとに、農機具や長靴等についた土は良く落とし、水でよく洗浄する。
- ・ 植付前に、圃場内に残った作物残渣の分解及び排水管理を行っておく。

③健全苗の確保

- ・ 種イモから苗を増殖する場合は、病害等が発生していない圃場で生産されたイモを選別して用いる。
- ・ 伏せこむ前の種イモは消毒を行う。
- ・ 採苗時のハサミはこまめに消毒を行い、苗は地際から5cm以上の位置で切る。
- ・ 採苗した苗は、採苗後速やかに苗消毒を行う。
- ・ 切苗を購入する時は、基腐病対策が徹底されていることを販売店に確認し、未消毒の場合は購入後に必ず苗消毒を行う。



サツマイモ基腐病に使用できる薬剤（植付前）

(令和7年2月19日現在)

目的	薬剤名	希釈倍数	使用時期／使用回数	分類	使用方法
コンテナ等の消毒 ※1	ケミクロンG	500倍	-/-		瞬間浸漬
種イモ消毒	トップジンM水和剤	200～500倍	貯蔵前～伏せ込み前／1回	1	30分採苗用種イモ浸漬
苗消毒	ベンレート水和剤 ※2	500～1000倍	植付前／1回	1	30分間苗浸漬
	ベンレートT水和剤 20 ※2	200倍	植付前／1回	M03、1	30分間苗浸漬
	トリフミン水和剤	500倍	植付前／1回	3	17時間苗基部浸漬

※1は農業資材用の消毒剤です。使用する前には必ずラベルを見て、希釈倍数や使用量などの使用方法を確認してください。分類欄には、FRACコードを記載しました（コードが2つは混合剤）。

※2は有効成分にペニシルを含みます。植付時までの処理はどちらか1剤の使用になりますのでご注意ください。

苗床や本圃で、疑わしい症状がみられたら、お近くの農業改良普及センターに連絡してください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。